

博物館の世界的動向

～国際博物館会議ICOM2019京都大会以前以後～



博物館の裏の話です。といっても、バックヤードではありません。バックグラウンドのおはなしです。

第274回 東京六稜倶楽部講演会

2025年10月15日(水)

バグースプレイス,東京

嶋 和彦 86期

資料（モノ）の収集保存、調査研究、展示公開、教育普及が博物館の古典的使命である。

しかし、近年、地球規模の自然並びに社会問題の解決に、博物館はもっと関与すべきとの考えが欧米の博物館界で大きくなった。

博物館とは何かが問い直され、国際博物館会議2019京都大会での白熱の議論を経て、2022年プラハ大会にて博物館の新定義が採択された。

そこには、先の使命に加えて包摂的、多様性、持続可能性、倫理、コミュニケーション、コミュニティ、省察、知識共有、経験といった使命が盛り込まれた。

モノだけでなく、そのような多様な事柄（コト）への博物館の関与が明確化されたのである。

京都大会前後の、この一連の動きを振り返ってみたい。

お話の内容

1. 博物館最前線
2. 博物館とは？
3. 国際博物館会議ICOMとユネスコUNESCO
4. 博物館新定義とICOM京都大会
5. 博物館のこれから

1. 博物館最前線



東京都美術館×東京藝術大学 とびらプロジェクト



とびらプロジェクト

全画面表示を終了するには **Esc** キーを押してください



後で見る



共有

⤴上にスワイプして再生位置
を細かく調整



0:00

録画中です
00:00:00



0:00 / 5:17



YouTube



ずっとび おうちで印象派展 アートコミュニケーター





感覚をひろく

あなたは

12294 人目の
登場人物です。



新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業



考える 語る 伝える 聞く

100人 深める

「みる」ことだけによらない美術鑑賞について、
新しい発見や興味が
どんどん生まれてきたゾ！



さまざまな
感覚を用いた
鑑賞を継続するなか
で、ひとりひとりの感じ
方の多様性
がうかびあがってきました。そうした違いがどこか
から生まれてくるのか、また新しい作品鑑賞のかたち
について考えを深めるために、アーティストや
専門家を招いたフォーラムやシンポジウムを行っ
ています。

1 京都国立近代美術館オープンデー2020「ひらさまつり」講演会
「芸術と記憶がつくる建築・空間」(2020.2.8) | 2 「チョウの軌跡」
長谷川三郎のイリュージョン」トークセッション(2023.11.5)



2025 九州産業大学国際シンポジウム

博物館と医療・福祉のよりよい関係

～日本・英国をつなぐオンライン開催～

オンライン開催 (Zoomを使用) 2025.1.25 SAT

●日本時間 19:00 ~ 21:30 ●英国時間 10:00 ~ 12:30

オンラインにて日本、英国を同時中継。◀同時通訳あり▶

開催内容

- 2025.1.25 SAT 司会進行：緒方 賢 / Iwata Kenji (Faculty of Education)

「美術館が変わる、若者が変える」

- 主催者：ロジェーン・フィンドレー (Liam Findley) 副学長・学長特別アドバイザー / Head of Programme & Engagement
 ○タラ・オウケ (Tara O'Keefe) 副学長・学長特別アドバイザー / Community Researcher

スケジュール

日本時間	英国時間
19:00	19:55
開会の挨拶 大日方 悠一 / Osone Kazumi	休憩
19:05	20:10
報告 ロジェーン・フィンドレー 「過去は現在のために (The Past for the Present)」 → グリッド・ロジャーズ・ドナトリーの変遷と動物 は現代人にかきとる影響	質問を基にしたディスカッション セクレター・結方 孝 パネリスト：ロジェーン・フィンドレー タラ・オウケ
19:35	21:15
タラ・オウケ 「過去は現在のために (The Past for the Present)」 → コミュニティ・リサーチの観点から	報告の2名から、よためのメッセージ
	21:25
	閉会挨拶 大日方 悠一
	21:30



ロジェーン・フィンドレー
Head of Programme and Engagement



タラ・オウケ
Community Researcher



大日方 悠一
Faculty of Education



緒方 賢
Faculty of Education

2025 九州産業大学国際シンポジウム

博物館と医療・福祉のよりよい関係

～日本・英国をつなぐオンライン開催～

英国内は、「不登校児童生徒29万9千人 (文部科学省調査)」、「若者のひきこもり65万3千人 (15歳～19歳、内閣府調査)」そして「自い不登、悩み、ストレスを感じる労働者の2.2% (厚生労働省調査)」と集めて深刻な状況となっています。

一方で、ヘルパーなどの医療・福祉関係では、医療従事者(志望)が地域のリンクワーカーを介して、患者へ適した情報提供を行う教育プログラムへの参加を促すように「協力」しています。また、英国内のHS(国際保健サービス)はロンドン大学と共同し、文化芸術を活用したメンタルヘルスプログラムを施設医に提供しています。

我が国においても、「子ども・若者」を念じた施設医の「メンタルヘルス支援」に向けた博物館プログラム開発、そして医療・福祉従事者と施設医、博物館などをつなぐリンクワーカー人材育成を目指すことが、「不登校・若者のひきこもり」深刻化に向けた社会課題の解決と若者の自立や社会参加の促進とに繋がります。博物館と医療・福祉関係の連携、さらに「博物館」による「子ども・若者」を支援する地域連携の促進と社会参加の促進を目的とします。

しかし、我が国ではこうした実践事例がなかなかありません。そのため、海外事例を知る必要があり、また、これまでに文化行事等の設計を受け国際シンポジウムを開催し、その成果を広く日本の博物館関係者と共有しながら、博物館の社会的価値を再考してまいりました。

本誌(本誌)が「変わる、若者が変える」をテーマに、英国内の医療従事者や博物館関係者との国際シンポジウムを開催します。

英国内のグリッド・ロジャーズ・ドナトリーでは、地域社会の人々とともに美術館の発展を目的に、施設医やボランティア(ボランティア)として採用し、2年間たった「過去は現在のために (The Past for the Present)」というリサーチ活動を行ってきました。そのメンタルヘルスの支援は、この活動の大きな成果の一つです。その実践成果を、「子ども・若者」を支援する博物館と医療・福祉関係者との国際シンポジウムにて、日本の施設医と一緒に考えていきます。

●博物館・博物館誌を通じて、博物館の持つ役割と活用を多くの施設医に共有する機会。

オンライン開催 (Zoomを使用) 2025.1.25 SAT

●日本時間 19:00 ~ 21:30 ●英国時間 10:00 ~ 12:30

オンラインにて日本、英国を同時中継。◀同時通訳あり▶

●主催：「児童生徒の不登校」「若者のひきこもり」「医療従事者向け社会参加支援とメンタルヘルス」支援プログラム開発とリンクワーカー人材育成事業実行委員会 (九州産業大学健康・文化、人間文化研究部、九州大学総合文化センター、福岡県博物館、福岡県美術館、福岡県立美術館、下関市立美術館、下関市立図書館、九州産業大学)

●協賛：「プリアンティオ・カンパニー」



<p>この情報を明記の上、お申し込みください。2025年1月6日(月)から先着順に受け付けます。</p> <p>登録決定可否、Zoomの参加用URLを後日メールにて通知します。</p> <p>件名：2025国際シンポジウム</p> <p>内容：●氏名、所属、●このシンポジウムに参加すること</p>	
<p>申込方法</p>	<p>メール申込は こちら</p>
<p>参加対象</p>	<p>博物館関係者、医療福祉関係者、社会教育・学校教育関係者、大学教員、学生、博物館に関心のある市民</p> <p>定費：100名(先着順)事前申込 受講料：無料</p>
<p>申込メール 問合せ先</p>	<p>九州産業大学「2025国際シンポジウム」事務局 E-mail: museum03@ip.kyusan-u.ac.jp (事務局：中込 茜)</p>
<p>主催</p>	<p>「児童生徒の不登校」「若者のひきこもり」「医療従事者向け社会参加支援とメンタルヘルス」支援プログラム開発とリンクワーカー人材育成事業実行委員会 (九州産業大学健康・文化、人間文化研究部、九州大学総合文化センター、福岡県博物館、福岡県美術館、福岡県立美術館、下関市立美術館、下関市立図書館、九州産業大学)</p>
<p>後援</p>	<p>プリアンティオ・カンパニー 事務局 緒方 賢 (九州産業大学地域連携推進センター)</p> <p>〒813-0262 福岡県糟屋郡志摩町3-1-1 TEL: 092-873-2180 / FAX: 092-873-2250 kushiroku@ip.kyusan-u.ac.jp https://www.kyusan-u.ac.jp/en/kyusan-u/</p>



博物館とは？

伝統的使命 4本の柱

- ▶ 収集・保管 ← 学芸員ほか
- ▶ 調査・研究 ← 学芸員
- ▶ 展示・公開 ← 市民
- ▶ 教育・普及 → 市民

+

建物（場・空間）

▶ 市民の態度

- どんな作品や資料かが関心の的
- 自分と作品との閉ざされた関係
(他人はむしろ邪魔)
- 展示場所はさほど重要ではない
- 博物館そのものへの関心はない

学芸員の態度

- 作品や資料の研究成果志向
- 教育や普及は面倒くさい
- 忙しすぎる

法律等による定義

▶ 日本（博物館法 S26）

歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を**収集**し、**保管**（育成を含む。）し、**展示**して**教育的**配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、**レクリエーション**等に資するために必要な**事業**を行い、あわせてこれらの資料に関する**調査研究**をすることを目的とする機関

▶ 西洋（ICOM憲章での定義 2007）

博物館とは、**社会とその発展に貢献**するため、有形、無形の人類の遺産とその環境を、教育や研究、**楽しみ**を目的として**収集**、**保存**、**調査研究**、**普及**、**展示**する公衆に開かれた非営利の常設機関

日本の法の関係

教育基本法 1947 S22 2006改正

(図書館及び博物館) 第九条 図書館及び博物館は、社会教育のための機関とする。

2 図書館及び博物館に関し必要な事項は、別に法律をもつて定める。



社会教育法 1949 2013改正

(図書館及び博物館) 第九条 図書館及び博物館は、社会教育のための機関とする。

2 図書館及び博物館に関し必要な事項は、別に法律をもつて定める。



博物館法 1951 2022.4改正



ICOM（国際博物館会議）

International Council of Museums

博物館の進歩発展を目的として1946年に創設された国際的な非政府組織。個人会員51,000人、団体会員3,000 登録国・地域131

▶ ICOMの博物館定義 2022 プラハ

博物館は、有形及び無形の遺産を**研究、収集、保存、解釈、展示**する、社会のための非営利の常設機関である。博物館は一般に公開され、誰もが利用でき、包摂的であって、多様性と持続可能性を育む。倫理的かつ専門性をもってコミュニケーションを図り、コミュニティの参加とともに博物館は活動し、教育、楽しみ、省察と知識共有のための様々な経験を提供する。

▶ ICOMの博物館定義 2007 ウィーン

博物館とは、社会とその発展に貢献するため、有形、無形の人類の遺産とその環境を、教育、研究、楽しみを目的として**収集、保存、調査研究、普及、展示**する公衆に開かれた非営利の常設機関である。

博物館の定義

▶ 日本の博物館法（昭和26年 19512022.4改正）

「博物館」とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を**収集**し、**保管**（育成を含む。）し、**展示**して**教育的**配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する**調査研究**をすることを目的とする機関。

3. ICOMとUNESCO

ユネスコの勧告2015

▶ ミュージアムの定義と多様性

当勧告において、ミュージアムという語は、「社会とその発展に奉仕する非営利の恒久的な施設で、公衆に開かれており、**教育と研究と娯楽**(を目的として人類と環境に関する有形無形の遺産を**収集**し、**保存**し、**調査**し、**伝達**し、**展示**するもの」と定義される。

したがって、ミュージアムは人類の自然的・文化的な多様性を表象することを目的とし、遺産の**保護**や**保存**そして**伝達(transmission)**においてきわめて重要な役割を果たす機関である。

▶ 経済およびクオリティ・オブ・ライフとミュージアムの関係

加盟各国は、ミュージアムが社会において経済的な役割を演じうることや、収入を生む活動に貢献しうることを認識すべきである。

加えて、ミュージアムは、**観光経済**に関係して、所在地周辺の**地域社会**や**地方のクオリティ・オブ・ライフ**に**貢献**するような生産的な事業を行っている。

より一般的には、ミュージアムはさらに、**社会的弱者の社会的包摂を増進**することもできる。

収入源を多様化し、持続性を高めることを目的として、多くのミュージアムは、自ら進んで、あるいは必要に迫られて、収入を生み出す活動を増やしてきている。

加盟各国は、ミュージアムの主要機能を損ねてまで、収入の創出に高い優先度を与えるべきではない。

加盟各国は、ミュージアムの主要機能は、社会にとって何よりも重要なものであり、単なる財政的価値には換算しえないことを認識すべきである。

この30年ほどの世界の状況

国立民族学博物館長（2019～2025） 吉田憲司氏の言葉

人類の文明は、今、**数百年来の大きな転換点**を迎えているように思われます。

これまでの、**中心**とされてきた側が**周縁**と規定されてきた側を**一方的にまなざし、支配する**という力関係が**変質し、従来、それぞれ中心、周縁とされてきた人間集団の間に、創造的なものも破壊的なものも含めて、双方向的な接触と交錯・交流が至るところで起こる**ようになってきています。

それだけに、人びとが、異なる文化を尊重しつつ、言語や文化の違いを超えてともに生きる世界を築くことが、これまでになく求められています。

今ほど、他者への共感に基づき、自己と他者の文化についての理解を深める文化人類学の知が求められている時代はないように思われます。

その知の国際的な中核拠点としてのみんなづくりに課せられた責務は、きわめて大きいといわなければなりません。

また、現在、「**フォーラム型情報ミュージアム**」というプロジェクトを推進しています。このプロジェクトは、みんなくの所蔵する標本資料や写真・動画などの映像音響資料の情報を、国内外の研究者や利用者ばかりでなく、それらの資料をもともと製作した地域の人びと、あるいはそれが写真なら、その写真が撮影された現地の人びとと**共有**し、

そこから得られた知見を共にデータベースに加えて共有し、新しい共同研究や、共同の展示、コミュニティ活動の実現につなげていこうというものです。

これらの活動は、いずれも、かねてよりみんながめざしてまいりました、さまざまな人びとの知的交流と発見、協働の場、つまり知のフォーラムを、研究教育活動・博物館活動を問わず、これまで以上に徹底したかたちで実現しようとするものです。

世界は . . .

ICT 社会的包摂 多様性 普遍性 ジェンダー
LGBTQ Black Lives Matter 差別 人権 SDG s
脱植民地化 (decolonization) グローバルサウス
平等 公平 少子化 高齢化 介護 福祉 ウェ
ルビーイング アクセシビリティ 観光 コミュ
ニティ コミュニケーション 市民参加 参画
ポピュリズム ヘイトスピーチ 格差 気候変動
地球温暖化 自然災害 環境破壊 感染症 戦争
紛争 ジェノサイド 社会貢献 民族主義
宗教対立 テロリズム 有形遺産 無形遺産
民主主義の危機 等々 課題は山積
博物館はそれらと無関係・無関心でいいのか？
解決はできないが貢献はできる

(伝統的) 博物館の宿命的性格

- ▶ 植民地主義の産物 植民地からの取得 略奪
- ▶ 世界を集める、支配する 驚異の部屋 権力の象徴
- ▶ 人まで集めて展示する
- ▶ 支配者側の上から目線の展示
- ▶ 支配する側からの、一方的な解釈 表現
- ▶ 展示される異文化への無理解
- ▶ 等々

4. 博物館新定義とICOM京都大会



ミュージアムの機能の変化と拡張

2020年

 **第4世代**
社会関係性志向
多様性
ウェルビーイング

2000年

・大英博物館
グレートコート

・東京都美術館
リニューアル
・金沢21世紀美術館
・森美術館
・TATE Modern

● **第3.5世代** アート・コミュニケーター
当事者志向
プロジェクト
オーナーシップ

未知に出会う
対話・フォーラム型

1980年

 **第3世代**
参加志向
ワークショップ
学校連携
プログラム
ボランティア
体験
ギャラリートーク

 **第2世代**
公開志向
常設展
企画展
特別展
造形講座
講演会
展示
啓蒙

 **第1世代**
保存志向
収集
保存

価値の定まった宝物を拝む寺院型

▶ 新定義の模索(2016~検討)

- ▶ 博物館は、過去と未来についての批判的な対話のための、民主化を促し、包摂的で、様々な声に耳を傾ける空間である。博物館は、現在の紛争や課題を認識しそれらに対処しつつ、社会に託された人類が作った物や標本を保管し、未来の世代のために多様な記憶を保護するとともに、すべての人々に遺産に対する平等な権利と平等な利用を保証する。
- ▶ 博物館は、営利を目的としない。博物館は、開かれた公明正大な存在であり、人間の尊厳と社会正義、世界全体の平等と地球全体の幸福に寄与することを目的として、多様な共同体と手を携えて収集、保管、研究、解説、展示の活動ならびに世界についての理解を高めるための活動を行う

新定義への模索

- ▶ “Museums are democratising, inclusive and polyphonic spaces for critical dialogue about the pasts and the futures. Acknowledging and addressing the conflicts and challenges of the present, they hold artefacts and specimens in trust for society, safeguard diverse memories for future generations and guarantee equal rights and equal access to heritage for all people. Museums are not for profit. They are participatory and transparent, and work in active partnership with and for diverse communities to collect, preserve, research, interpret, exhibit, and enhance understandings of the world, aiming to contribute to human dignity and social justice, global equality and planetary wellbeing.”

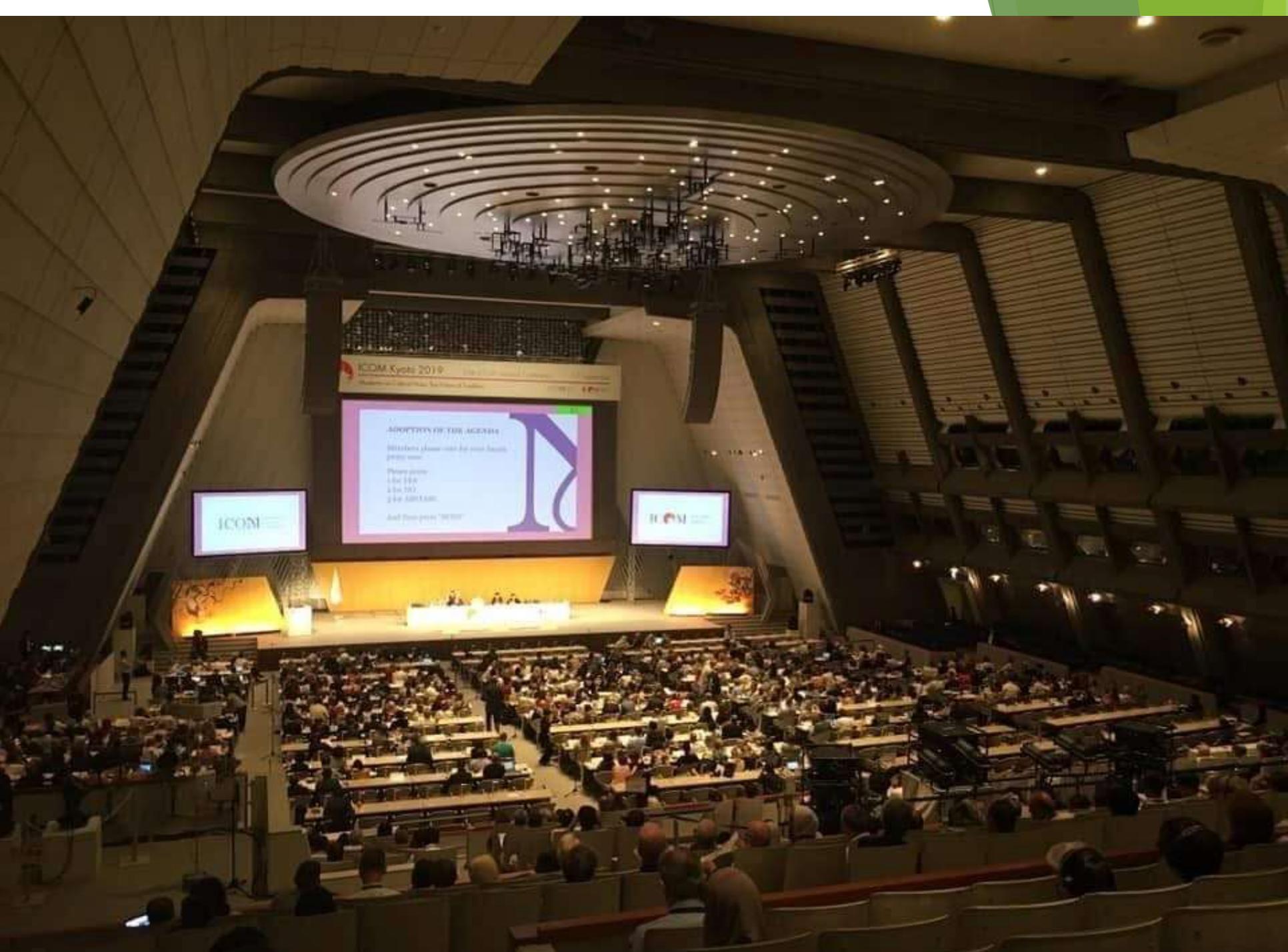
新定義は2019ICOM京都大会で採 択予定だったが・・・

- ▶ 定義案の公開が数種館前だったため、討議をもっと深めるべきとの意見が多数を占め、4時間以上の総会での民主的な議論の末
賛成か反対かではなく、議論のために、採決延期とする議決。
- ▶ 2020年6月パリでのICOM総会で議決の予定であったが、コロナ禍でできず、検討は継続。
- ▶ 2020～2022まで世界の会員が語句の選定から議論に参加。数回の定義案が次第に絞り込まれた。
- ▶ 2022年ICOMプラハ大会で採択。

ICOM世界大会京都2019

国際博物館会議の3年毎の世界大会 第25回

- ▶ 会期 2019.9.2 (月) ~7 (日)
- ▶ 会場 国立京都国際会館
- ▶ 過去最高の参加者 4590人 120国・地域
- ▶ テーマ 文化をつなぐミュージアム~伝統を未来へ
Museums as Cultural Hubs : The Future of Tradition
- ▶ 文化の結節点としての博物館
- ▶ 多種多様な博物館と博物館をつなぐ
- ▶ 過去と現在と未来をつなぐ
- ▶ 地域と地域をつなぐ
- ▶ 人と人、モノとモノ、人とモノをつなぐ
- ▶ すべてをつなぐ
- ▶ 博物館対入館者という図式からの脱却
- ▶ 社会と地球と生活を持続するためには人びとの結束が必要
- ▶ SDGs レジリエンス コミュニケーション 脱植民地



ICOM Kyoto 2019

ADOPTION OF THE AGENDA

Delegates please vote for each agenda point once.

Please arrive:

- 14th 18:00
- 15th 08:00
- 15th 18:00

And then press "YES"

ICOM

ICOM



京都大会の意義

5つの決議案

- ▶ 我々の世界を変革する：持続可能な改革のための2030年アジェンダの履行
- ▶ ICOMコミュニティへのアジアの参画の徹底
- ▶ Museum of Cultural Hubs の理念の徹底
- ▶ 世界中の収蔵庫のコレクションの保護と活用に向けた方策
- ▶ 博物館、コミュニティ

新定義再考の民主的かつ友好的な議論、対話

5. 博物館のこれから

- ▶ インフォーマルな教育学習の場
- ▶ 知識・論理・言葉が大切。「知」の世界。単なるエンタメ施設ではない。
- ▶ しかし、感覚・感性・感情を忘れてはいけない。人間性への敬意。
- ▶ 気候変動、自然災害、感染症、格差社会、紛争社会、IT社会の中で、改めて気づいた人間関係の大切さ、人間性と精神文化の大切さ。
- ▶ その中で博物館はどうあるべきか？
新しい日常に加えて、新しい価値観とは？
- ▶ コペルニクスの転換が必要。

5. 博物館のこれから

大変革期を乗り越える

- ▶ 4つの使命に加えて、モノとコトの保存と未来への伝承。鑑賞、見学、研究を超えて協働、共創へ
- ▶ 「テンプル型（至宝参拝型）」から「フォーラム型（未知なるものに出会い議論が始まる）」へ

(美術史家ダンカン・キャメロン1972)

- ▶ 第4世代の博物館へ（伊藤寿郎による世代論）
- ▶ 「静なる墓場」から「動なるステージ」へ
- ▶ 歴史、遺産への敬意と、過去から学び、今に生かし、未来へつなげること Cultural Hubs
- ▶ 展示される文化の当事者の参画
- ▶ 社会課題への貢献
- ▶ モノもコトも、人間も生き生きと輝く、人びとが集う「場」「プラットフォーム」「広場」になること



余談 格差の誕生

美術館 = 美術**作品** = 芸術**作品**

格調高い オシャレ スマート

博物館 = 考古資料、民俗資料等 = 非芸術作品

過去、古い、珍奇、時代遅れ、役立たず、
一線を退いた、普通、ガラクタ、の保管展示 墓場

格調低い オシャレじゃない 古臭い

博物館入り = 価値が下がる

美術館入り = 価値が上がる

という認識

7.まとめ

既成概念の破壊と創造

建物(スペース)、設備、資料、スタッフがそろそろ博物館やホールにできることは、今以上にたくさんある。

それを妨げているのは、

既成概念、人の意識。

博物館スタッフだけでなく、関係職員、利用者、にも意識改革が必要。

制度やシステムだけ変えてもうまくいかない。文化の問題。

ミューズ(学芸の女神たち) の住む館

▶ Museum ミュージアム

「博物館」は江戸末期から明治のはじめに現れる言葉。西洋のMUSEUMの邦訳。

「博物」とは中国古語で、「広くものを知る」の意。

日本の知識階級に浸透するのは福沢諭吉「西洋事情」初版。

「博物館は世界中の物産、古物、珍物を集めて人に示し、見聞を博くするために設るものなり」

美術館か博物館か？

- ▶ どちらもMuseumの訳。

元来、美術館は博物館のひとつ。

- ▶ 英語では、Museum of Arts、Museum of Fine Arts 芸術(作品)の博物館

日本では東京国立博物館など博物館が美術品も展示していたが、美術作品のみの本格的な美術館は倉敷の私立大原美術館が最初。以後

〇〇美術館が増えてくる。

そして、博物館と美術館の区別が職員にも見学者にも生まれ始める。

ミュージアムとは？

What is Museum ?

Muse = ミューズ

ギリシア神話の学芸を司る女神たち

ギリシア語ではムーサ、ムーサイ

舞踊、音楽、歴史、天文、詩など

9人前後

UM = 場 場所 建物 館

stadium aquarium

本質の欠如

- ▶ 西洋の「Museum」「ミュージアム」にはあって、日本の「博物館」「美術館」には無いものとは？
- ▶ ミューズ（女神）がない。日本語からは想像すらできない。
- ▶ 人々は美術鑑賞の場、広く知識を知る場、としてしかとらえられない。
- ▶ 展示品（もの）の背後にある精神文化、価値観が置き去り。
- ▶ いわゆる「ハコモノ」。
- ▶ 特に博物館の「モノ」は、「不要なモノ」としてしかみられない。

文化遺産（有形・無形）という概念の欠如

レクリエーションと楽しみ

- ▶ 博物館法では「レクリエーション」
→ 語意 語感
- ▶ ICOMの定義和訳では「楽しみ」
→ 語彙 語感

英語では、どんな単語？

entertainment, pleasure,
play, joy, happiness

答えは ENJOYMENT

A museum is a non-profit, permanent institution in the service of society and its development, open to the public, which acquires, conserves, **researches**, communicates and exhibits the tangible and intangible heritage of humanity and its environment for the purposes of education, **study** and **enjoyment**.

Joy ではなく Enjoy

娯楽 entertainment ではなく、
学ぶ study という行為を楽しむこと
enjoyment。

資料 materials ではなく、
遺産 heritage。

一方通行 train give teach ではなく
双方向の普及 communicate。

世界と日本の考え方の違い。

モノとコトとヒト

その協働で生まれる新たな価値と楽しみ

- ▶ 妨げるものをどうするか。

規則 条例 法律 所有権 著作権 予算

集客第一主義 人気第一主義 ビジネス主義

欧米崇拜主義 テリトリー主義

前例踏襲主義等々 アート至上主義

- ▶ 「文化のハブ」「ステージ」になれるか？
- ▶ 発想の転換 モデルの一つは動物園 水族館
- ▶ アートマネジメントは非アートを含まない？
- ▶ アートと非アートはどう違う？ マネジメントで？

最後に

- ▶ 常に問題意識を持ち、これでいいのか？ もっといいもの、もっといいことができないか？ 今日をよくても明日は違うかも。過去と伝統に敬意を払うことは決して忘れることなく、新しい価値を創造していくこと。
- ▶ 工業製品は新製品が次々に出るのにホールや博物館の活動は新製品無し？
- ▶ 博物館やホールを生かすも殺すも結局は人次第。だから自己研鑽が必要。
- ▶ アートマネジメント、言葉はカッコイイですがそんな簡単なもんじゃない、と私は思います。

おしまい